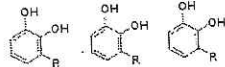


うるし、潤し、漆のハナシ

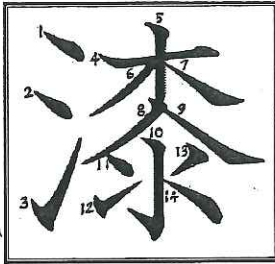


日本における漆の歴史は、大変古く、福井県浜貝塚遺跡からは、約1万2,600年前の漆の木が、北海道垣島B遺跡からは、**世界最古といわれる約9000年前の漆器**が出土しています。これらの出土品が表すとおり、漆は現存の塗料では、到底太刀打ちできない強靱さ、耐久性を持っており、太古から、神秘的なものとして、崇められてきました。

漆の一滴は、血の一滴



人が傷を負うと血小板の働きで傷を治すように、漆の木は、傷をつけられると、自ら漆の液を生産し、傷口から流し滲ませます。これを掻きとったのが、漆液、いわば漆木の血の一滴!! 漆液は樹齢20年の漆木



マリー・アントワネットも漆のトリコ!

から、**たった20%**しか採れません(⊙)

戦国時代、スノーインやポルトガルから来た宣教師達は、ヨーロッパにはない艶やかな漆の黒に魅せられ、母国の教会に寄贈しました。それらは今でも、大切に保管されています。また、ベルサイユ宮殿でおなじみの王妃、マリー・アントワネットは、漆器の熱心なコレクターで、漆器を飾る「黄金の部屋」を特別に作らせたほど。ちなみに、**ピアノの黒は漆の黒に憧れたヨーロッパ人が、それに似せてピアノを黒く塗ったのが、はじまりだ**そうです。「ラブ」——。

赤ちゃんから高齢者まで、人にやさしい漆器

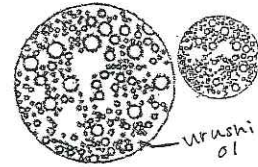


離乳食トレーニング中の赤ちゃんは、差し出された食べ物を前に、しばしば泣いたりします。一説によると、これは、食べ物を拒否しているのではなく、石油や鉛物から人工的に作られたスプーンにべっぴんしているというウワサも。たしかに、生まれてからというもの、母乳とミルクで過ごしてきたのですから、わからなくてもよいようなところが、漆のスプーンで離乳食を与えると、赤ちゃんはイヤイヤせず、すんなり食べ物を受け入れるのだとか。100%天然素材で、いかに作られる漆器は、人肌に優しく、温かく、口あたりがよいので、赤ちゃんだけでなく、介護施設や病院でも、多く使用されているそうです。

大相撲
第五十代横綱「輪島」

あっぱれ、漆!

恐怖のウルシオール



「うるしがぶれ」の原因となるウルシオールは、付着すると皮膚に浸透し、1~2日で激しいかゆみと水泡を発生します。それも、これだけ医学の進歩した現代でも、その特効薬はないのだと…。そのため、海外では漆は劇薬として扱われるそうです。【余談】かぶれたところを掻くと、この世のものとは思えない超快感が体内を突き抜けるそうです。わがー、気になる。以上、うるし、潤し、漆のハナシでした。

